



付録

- [新規および退職した従業員とWebex アプリそのアカウントの管理 \(1 ページ\)](#)
- [AD LDS と Cisco directory connector \(3 ページ\)](#)

新規および退職した従業員とWebex アプリそのアカウントの管理

シナリオ

さまざまな部門にわたって8000人を超える従業員がいる中規模企業は、迅速な開発のフェーズにあり、複数の場所をオープンしています。企業は、Messaging、Meetings および Hybrid Services などのいくつかの Webex サービスを購入しています。お客様の IT 管理者は、ユーザを Webex クラウドにプロビジョニングする必要があります。Webexその後、ユーザは割り当てられたサービスを使用できます。

企業の迅速な開発により、参加と脱退の従業員が存在します。IT チームはこれらの変更を管理する必要があるため、新しいユーザを社内ディレクトリに追加し、そのユーザのユーザアカウントも削除する必要があります。

問題

IT チームは、以前の従業員と請負業者が引き続きサービスにアクセスできることを示すレポートを作成しています。IT チームは、HR サービスシステムの更新が完了した後、すぐにクラウドからユーザを削除しませんでした。通常、IT チームは頻繁に変更をサポートするための十分な可用性を備えていません。その結果、財務レポートとサービス使用状況のサマリーレポートに不一致があります。これにより、すでに会社を離れているユーザが引き続きサービスにアクセスできるため、機密情報が漏洩するリスクが生じます。

このシナリオの問題には、自動化されたソリューションが必要です。

組織の目標

組織では、次のようなメンテナンス作業が少ないと想定されています。

- 新しいユーザを自動的にクラウドにプロビジョニングし、削除されたユーザをクラウドから自動的に削除します。新しいユーザには自動的にサービスが割り当てられ、以前の従業員はサービスへのアクセスを拒否されます。
- ユーザの変更をオンプレミスからクラウドに同期します。
- クラウドユーザアカウント情報は、オンプレミスのディレクトリと完全に一致させてください。

ソリューション

ディレクトリ コネクタ は、この問題を解決し、お客様がユーザーをプロビジョニングし、Webex クラウドでサービスを特定できるように促進します。

ディレクトリ コネクタは、ADDS デバイスでセットアップできるオンプレミスアプリケーションです。次に、Directory Connector はオンプレミスの Active Directory と通信し、変更をモニタしてクラウドへの変更を同期することができます。

はディレクトリ コネクタ簡単にセットアップして維持することができます。をセットアップしたディレクトリ コネクタ後は、クラウドとオンプレミスの Active Directory 間のセキュリティと整合性について心配する必要はありません。以下に、ソフトウェア使用によるメリットの例を示します。

- ユーザがオンプレミスの Active Directory から削除されると、ユーザはクラウドから完全に削除されます。これにより、ユーザがサービスにアクセスするための許可を拒否されず。
- このソフトウェアは、高可用性のための分散型展開にすることができます。その他のコネクタは、前のアクティブな接続が切断されたときに自動的にアクティブになります。したがって、ハイアベイラビリティは、オンプレミスの AD での変更の欠落を懸念することなく、ビジネスにサービスを提供できます。
- ソフトウェアは、ユーザデータに対する偶発的な変更を防止します。ディレクトリ コネクタユーザデータの整合性を維持します。ディレクトリ コネクタを有効にすると、唯一のデータソースはオンプレミスの Active Directory です。
- ソフトウェアは、選択した頻度でデータをクラウドに同期させることができます。変更の完全同期または差分同期のいずれかを選択できます。

まとめ

ディレクトリ コネクタ数百のユーザWebexを含む大企業のお客様向けのプロビジョニングユーザを簡素化します。このツールを使用すると、ユーザーデータを同期したままで、このシナリオで説明されている問題を回避できます。

AD LDS と Cisco directory connector

AD LDS と Cisco directory connector



- (注) まだサポートされていますが、複数のドメイン、単一フォレストの Active Directory の導入では、AD LDS は必要ありません。単一のフォレスト Cisco directory connector または複数のフォレストを持つ複数のドメインに対して自身を使用できます。

データモデルの制限 (単一の LDAP パーティションビューまたは単一の組織単位 (OU) ビュー) は、エンタープライズディレクトリ対応アプリケーションに適用される場合があります。このアプリケーションは、企業内の複数のフォレスト、ドメイン、または Ou にある AD DS 認証ユーザ、アプリケーション、またはネットワークリソースに関連付けられているデータにアクセスする必要があります。

このような状況で、AD LDS は、ユーザデータベースを、さまざまな AD ドメインコントローラまたは他の LDAP ソースと同期するために使用されます。このような場合は、をインストール Cisco directory connector するときに、AD LDS 項目のドメインアカウントを選択します。

環境に単一のフォレスト内に複数のドメインがある場合は、AD LDS を Cisco directory connector 設定し、を親ドメインにバインドします。AD LDS に Cisco directory connector は、複数のドメインの統合ビューが用意されています。

AD LDS について

Microsoft Active Directory Lightweight Directory Service (AD LDS) を使用して、ディレクトリ対応アプリケーションにディレクトリ サービスを提供できます。ディレクトリ対応アプリケーションデータを保存するには、組織の Active Directory Domain Service (AD DS) データベースではなく、AD LDS を使用してください。

AD LDS と AD DS を使用して、セキュリティアカウント用の中央の場所 (AD DS) と、アプリケーション設定およびディレクトリ データをサポートするための別の場所 (AD LDS) を用意することができます。

AD LDS を使用すると、次のことが可能になります。

- AD レプリケーションに関連するオーバーヘッドを削減する
- アプリケーションをサポートするために AD スキーマを拡張する必要がない
- ディレクトリ対応アプリケーションをサポートする必要があるサーバにのみ AD LDS サービスが導入されるようにディレクトリ構造をパーティション化します。

Ad lds を使用する必要がある7つのシナリオを理解するには、「[AD Lds ロールを使用するタイミング](#)」を参照してください。

Ad lds 環境をセットアップするには、[AD lds](#)の手順に従って作業を進めてください。

AD LDS の使用Cisco directory connector

Windows Server 2008 のサーバコアインストールオプションと、Itanium ベースのシステムの Windows Server 2008 では、サーバロールの一部を使用できます。

始める前に

[AD LDS の使用](#)に関するドキュメントを確認します。

手順

- ステップ 1 Windows Server 2008 を実行しているコンピュータに AD LDS サーバの役割をインストールするには、「[AD Lds サーバロールのインストール](#)」を参照してください。
 - ステップ 2 AD LDS インスタンスの使用を開始するには、「[AD Lds インスタンスの使用方法](#)」を参照してください。
 - ステップ 3 ファイルから AD LDS インスタンスにデータをインポートするには、「[AD Lds インスタンスへのデータのインポート](#)」を参照してください。
 - ステップ 4 AD DS からインポートするには、「[Synchronize WITH AD ds](#)」を参照してください。
 - ステップ 5 AD LDS で複数のパーティションを設定する場合は、必要なパーティションを 1 つ選択して、Cisco directory connector の [組織の確認 (Confirm Organization)] ウィンドウで [確認 (Confirm)] をクリックします。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。